

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

私とパウル・ティリッヒとの出会い

岩城 聰

本・批評と紹介

並木浩一 著

批評としての旧約学 高橋 一

斎藤惇夫 著

わたしはなぜファンタジーに向かうのか

中村 柊子

石田順朗 著

神の元気を取り次ぐ教会 森野善右衛門

日本聖書神学校キリスト教研究所 編

礼拝の詞 1 越川弘英

W.パネベルク 著／濱崎雅孝、清水 正、小柳敦史、佐藤貴史 訳

学問論と神学 佐々木勝彦

古屋安雄 著

私の歩んだキリスト教 深井智朗

本・紹介

スタンリー・ハワーース 著／東方敬信 監訳

青山学院大学総合研究所叢書

大学のあり方

既刊案内

書店案内



6 JUNE
2014



異質な言葉の世界

洗礼を受けた人にとっての説教

W.H. ウィリモン 上田好春 訳

洗礼を受けた者に広がる徹底的に「異質」な世界。洗礼の意味、受洗者の回心と覚悟、変えられる喜びが語られる。説教三編を収録。

◆四六判 並製・232頁・2,376円

姉妹編 8月刊行予定 あわせてお読みください

介入する神の言葉 W.H.ウィリモン 上田好春 訳
—洗礼を受けていない人への説教

CD版 讃美歌21による 礼拝用オルガン曲集 第3巻 詩編と頌歌

第2回

飯 靖子 演奏
志村拓生



◆36曲収録・1,944円
楽譜版に収録の全36曲を曲集の編者が演奏した模範演奏CD。各曲の演奏に使用したストップ・リストを収録。

沈黙の声を聴く

マルコ福音書から

絹川久子



◆四六判 並製・264頁・2,700円
聖書に描かれる弱者や女性達を社会から遠ざけていたものは。マルコ福音書と向き合えば、イエスの声に耳を傾ける。

「説教黙想」と注解書を用いて、説教作成のプロセスを共に体験しましょう

説教黙想 アレティア

牧師向け 説教セミナー開催のお知らせ

- 日 時 2014年6月16日(月) 13時~18日(水) 15時
- 場 所 聖心会裾野マリア修道院 ● 定 員 20名 ※教会の担任教師に限りです
- 講 師 平野克己 牧師(日本基督教団 代田教会) / 吉村和雄 牧師(キリスト品川教会)
- 参加費 25,000円(交通費は別) 詳しくはホームページをご覧ください



出会う・本・人

私とパウル・テイリツヒとの出会い——岩城 聡

私とパウル・テイリツヒとの出会いは、大学二年生の時であった。武藤一雄先生のキリスト教学概論の講義の中で、バルト、ブルトマンらと並んでテイリツヒの名前が、神学の巨人として挙げられていた。大学では原典で読むことが推奨されていたため、とりあえず英語で読むことが出来るテイリツヒの著作を読み始めた。すると、不思議なことに、まるで聖霊が降ったかのようにすらすらと理解できるではないか。それは、テイリツヒ自身がアメリカに亡命して日が浅く、英語にあまり堪能でない時期に、比較的シンプルな英語で書かれたものであったからかもしれない。ともあれ私は夢中になって、英語で読める文献を読みあさった。ことに『生ある勇氣 (The Courage to Be)』と『地の基震い、動く (The Shaking of the Foundations)』などは、青年時代の厭世気分と懷疑の中にいた私に、まさに「生きる勇氣」を与えてくれたのである。やがて演習の中で『組織神学』に取り組んだ。当時は第三巻が出版されたばかりであったので、武藤先生の演習は第三巻の聖霊論であったが、第一巻と第二巻は自分の学びとして読み進めた。その中でテイリツヒは、神を「人間の究極的関心 (ultimate concern)」と呼び、「存在の根拠」と表現した。これは、ヤコブ・ベーメ以来のドイツ神秘主義、あるいは否定神学の伝統の延長線上にあるものであり、それまで日曜学校的な「天の上のひげを生やしたお

じいさん」、あるいはギリシア哲学的な「不動の絶対者」をイメージして苦しんでいた私に、新しい道を示してくれた。

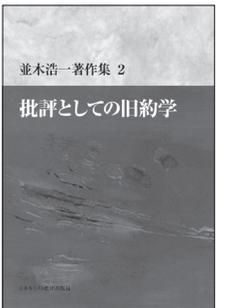
それから三〇年後、私は再び母校の門をくぐった。キリスト神学の大学院で学ぶためである。幸いなことにその間に英語にもドイツ語にも触れ続けていたお陰で、依然として原典主義を守り続けている研究室においても何とかついて行くことが出来た。修士・博士課程では、中期テイリツヒの思想である「宗教社会主義」についての研究をテーマとした。誤解のないように断っておくが、テイリツヒの言う宗教社会主義とはソビエトや中国の「社会主義」とは全く異なるビジョンであって、社会変革のプログラムというよりはむしろ、人々を未来を指向する福音の立場へと導く神学的立場である。それは、それまでの間、教会を離れて、実社会の中でもがいていた私にとっては、導きの光であった。教会の中で「社会派」と「福音派」あるいは「牧会派」の間の不毛な対立があると言われて久しいが、テイリツヒの立場はそれらを「止揚」して、本来の福音の意味を取り戻すものと思えた。

現在の神学状況では、過去の遺物のように思われているかもしれないテイリツヒの神学思想を、新しい光の下でよみがえらせたかと思っているのは私だけではないと信じている。

(いわき・あきら 日本聖公会司祭、川口基督教教会牧師)

現代への危機感と新生の希望をこめた旧約学の営み
並木浩一著

並木浩一著作集2 批評としての旧約学



高橋 一

ある識者は、現代日本における「反知性主義」の広がりを指摘して語る。(「反知性主義の対極にある」) 教養とは一言で言えば、「他者」の内側に入り込み、「他者」として考え、感じ、生きる経験を積むことである。死者や異邦人や未来の人間たち、今ここにいる自分とは世界観も価値観も生活のしかたも違う「他者」の内側に入り込んで、そこから世界を眺め、世界を生きる想像力こそが、教養の本質である。(傍点は筆者)。そのような能力を評価する文化が今の日本社会にはない。(内田樹、毎日新聞・朝刊、二〇一四年三月五日)。本書の著者が自らの旧約学と想像力との深い関連性に言及するのは、近年の日本を覆い始めた、想像力を欠いた「反知性主義」への危機感と無縁ではない。

本書は、第一部「文化創造に向けて」、第二部「他者への想像力」、第三部「人間への眼差し」、第四部「応答的な書評」から成る。旧約学論集としては異例の構成とタイトルである。第一部の「つねにチャレンジャーでありたい——旧約学

徒としての歩みと考え方」は、東京神学大学での講演を圧縮したもので、著者の学問的姿勢の宣言である。「現代日本には公の精神が欠けています。今日の教会が公の精神の源泉を提供できる存在として、この国に寄与することを私は心から願う者です」との言葉には、日本の新たな文化創造への責任意識をもって旧約学に従事して来た著者の積年の思いが込められている。それに続く「二期イスラエルにおける契約の理解——方法的考察と試論」、三「法・権利・正義——異文化の文脈に聖書の法的概念を移すために」は、共に五〇年前の論考だが、帰納的思考を選ぶ著者の原初の学問的姿勢が確認できる。

第二部は多彩である。「人は想像力なしには生きられない」は、神学生を前に現実批判の拠点としての想像力の可能性を論じ、こう締めくくる。「説教もまた、かつて聖書の人びとが非人間化する内外の力に抗して展開した想像力に基づく言葉を読み取り、聞き手の想像力を喚起しつつ静かに語りかける仕事である」。この言葉も、著者の半世紀に及ぶ旧約学が、何よりも日本の教会への励ましと期待を込めた営みであった消息を告

げている。

続いて、旧約学に新しい息吹を与えた画期的論文、二「アモスのイメージ」が置かれる。三「ゲルハルト・フォン・ラートの神学的自己形成と『創世記註解』」、四「ヘッセルの預言者論に寄せて」、五「ヨブ記からの問いかけ」、六「ヨブ詩人の後継者、マルガレーテ・ズースマン」は、いずれも著者の文学的資質と神学的想像力と批判精神を遺憾なく発揮した論考である。第三部の二「旧約聖書における女性」は、レアとラケルにおける目の表現の分析など、旧約学的美術論とも言える論考で、ここでも著者の旧約学の魅力を垣間みることができる。

第四部には大貫隆氏の二冊の著作と内田芳明氏の『ヴェーバー「古代ユダヤ教」の研究』に対する応答的な書評が置かれる。後者は大塚久雄批判に触れて、テキストに拘束された読みのレベルを超え出る理解がいかに重要であるかを語る。それもまた著者の批評精神の発露であろう。

著者は旧約学徒として歩み始めた頃、故関根正雄氏から方法論を問われ、「方法は対象が決める」との孤独な確信に至る。「一定の方法論に自分を閉じ込めたくない、自由でありたい」と反応したからだ。後には「批評」を事柄の本質の把握に向かう表現者の欲求の行使とみなす作家の奥泉光に共感しつつ、「テキストから人間を読み取るための、共感と批判を総合しつつ対象の全体に接近する」批評的行為においては、自由な「想像力」の行使が実は不可欠だと自覚する。

旧約聖書はイスラエル民族のアイデンティティの確立を鼓舞しつつ、同時にその過剰な独善性を批判する書物として形成された。知識人の危機感と共に、民族の新生への希望と意志が刻印されている。本書にもまた、著者による現代日本への危機感と新生への希望がこめられている。本書を含め、本著作集刊行の意義は今日ますます重い。(たかはし・はじめ「日本基督教団教師」(A5判・三五〇頁・本体四〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)

十字架とリンチの木

ジェイムズ・H・コーン 梶原 壽 訳



黒人リンチの歴史的傷を癒す対話の端緒であり、あらゆる人種・民族差別に抵抗するすべを探る必読書。
A5判・306頁・4104円

ヨハネの黙示録を 読もう

村上 伸



キリスト教迫害下で書かれた黙示録を46回に渡って読む黙想集。現代の精神状況を黙示録的に読み解く。
四六判・208頁・1944円

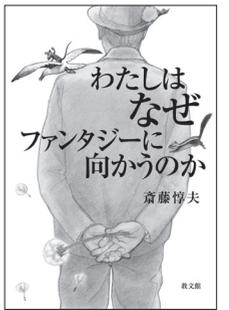
並木浩一 連続講演会のご案内

著者自身が著作集を解説する貴重な機会、最終回!
第3回「旧約聖書の水脈」
2014年6月7日(土)
*詳細はHPをご覧ください
著作集第3巻「旧約聖書の水脈」は6月刊行予定です!!

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

子どものための文学を語る
斎藤惇夫著

わたしはなぜファンタジーに向かうのか



中村 柊子

著者には、子どもたちに根強い人気を持つロングセラー『グリックの冒険』や『冒険者たち』『ガンバとカワウソのぼうけん』の冒険三部作に、四年前に発行された『哲夫の春休み』を合わせ四冊のファンタジーがある。三部作は親子二代にわたるファンも多い。私はいずれの作品も当然のことだが大人になってから出会った。ほんとうは子どもの時に読みたかったと思う。でも児童文学を読むときは不思議と大人であることを忘れてしまふのだろうか。面白くなければ途中でやめてしまふし、評価も分析も不要、ただひたすらどきどきしながら作品を読む。もちろん四冊とも子どものように夢中になって読んだ。でも時折、大人ならではの味わい方をしてみたいと思うこともある。たとえば作者のこともっと知りたくなったときなどに。

『わたしはなぜファンタジーに向かうのか』にも、そんな思いで手を伸ばした。著者がどのようにしてこの四冊を生み出したのか、ファンなら誰しも気になるころだ。

本書は、岩波書店創立百周年を記念して、「自作を語る」という企画でなされた講演会の記録だ。ゆえにあたかも著者が目の前にいるかのような言葉の近さを感じる。静かに誠実に、はにかみながら、ときに熱を帯びる言葉。ことに、原発事故を生み出してしまった社会の歪みが子どもにも与える影響の強さには、はっとさせられる。そして淡々と、悲しみや苦しみから逃げも避けもせずに、自身の経てきた道を語り、その道のり、「いま書かねば」と思い立った胸のうちを聞き手に語り続ける。

一冊一冊の作品が、どのように誕生していったか、舞台となる場所はどこのように設定されたかなど、こんなに手の内を明かしてしまってもいいものかと、心騒ぐ。著者の思いを知りえても、作品は書き手の手を離れば受け止め方は読者にゆだねられるものだが、著者の言葉を手がかりに、作品の理解を深めていけるのは、大きな喜びだ。それにしても作家とはなんと、しんどい職業なのだろう。

三部作は、動物たちの冒険を描くファンタジーだったが『哲夫の春休み』は、人間が主人公のファンタジーだ。なぜそこに行き着いたか。私たちはそこに表題の意味を知る。

著者は作家であると同時に、すぐれた子どもの本を世に送り

出してきた編集者でもあった。どういう本をよい本というか、それを解き明かしてくれるのも本書を読む楽しみの一つだ。よしとする本に迷いが無いのは、石井桃子や瀬田貞二などよき師に恵まれたことも大きい。自身の子ども時代の読書体験によることも大きい。子どもの本選びに迷いがあるなら、巻末に付けられたブックリストが役に立つ。そこに挙げられた絵本や児童文学は、教師や保育者たちに、必読の書ばかりだ。

著者の人となりや、何とか私の言葉で語りたい！と悶々としていたとき、部屋の片隅に一冊の古いノートを見つけた。何気なく見ていたら、どの本からの抜粋か、こんな一節が書き写してある。絵本作家のマーシャ・ブラウンが、おなじく絵本作家のワンダ・ガアグを評しているのだ。いわく、——自分に対して徹底的に誠実で、幼い子どもたちにたいへん易しいことばを使って語りかけることのできる類まれな才能をもち、自分で作りだした物語を自分自身の方法で絵にすることができた人

——と。絵を「作品」に置き換えれば、これは斎藤惇夫氏にそっくり当てはまるではないか。私は氏を語る言葉を考えないことにした。

著者は五冊目のファンタジーを準備しているという。どんな物語になるのだろう。子どもたちはその作品をどう受け止めるだろう。物語を読む喜びを子どもたちにもたらしめてくれた著者の熱い思いが、どんな形で展開されるのか今から楽しみだ。既刊の四冊のファンタジーも、是非手にとって欲しい。

(なかむら・まさこ 元保育園園長
四六判・二二八頁・本体一〇〇円＋税・教文館)



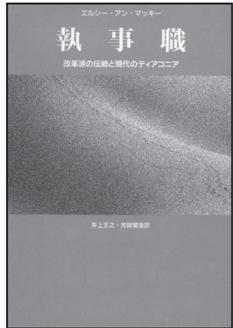
執事職

改革派の伝統と現代のディアコニア

エルシー・アン・マッキー

Elsie Anne Makee

井上正之・芳賀繁浩*訳



ディアコニアについて、
改革派の伝統に、
歴史的・神学的に学ぶ。
執事の〈つとめ〉のための
具体的な方法を提示。

A5判

定価 [本体 2,000 + 税] 円
ISBN978-4-900666-29-0



株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

神からの「命の息吹」をもらう秘訣
石田順朗著

神の元氣を取り次ぐ教会 説教・教会暦・聖書日課・礼拝



森野善右衛門

『神の元氣を取り次ぐ教会』という石田順朗氏の新著のユニークな書名に、まず第一に注目させられる。著者が本書の「序にかえて」で述べているように、「元氣」の「氣」は、中国の思想、とくに道教や漢方医学の用語であり、わが国では、元氣は従来、健康や精神状態を表わす用語として用いられ、「活動の源となる氣力」のことで、例えば「お元氣ですか」という日常の挨拶にもよく用いられる言葉である。

著者は、敗戦後の日本人が生きる目標を失い、絶望の中にあつたときに、聖書の中に記されている「神の言葉」に出会って、そこから生きる「元氣をもらった」個人的経験をふり返り、聖書こそ「元氣が出ることば」を収録、「元氣が出る話」を列挙、「元氣が出るコツ」を開陳、「元氣が出る方法」や「元氣になる秘訣」を内蔵している書物であると説く。「神の元氣」は、旧約聖書では、神からの「命の息吹」で、ヘブル語の「ルアツハ」は「息」「靈」「風」と訳され、新約聖書ではその「靈」は「 pneuma」で、「神の靈」「聖靈」「神の力」と理解される。

このような「序」に本書全体の意図が示され、以下において、

の言葉の力にふれて「元氣」を与えられ、回心してキリスト信徒として新しく歩み始めた（一九四八年）者として、著者の自伝的文章に共感するところが多くあった。

著者の石田氏は、日本ルーテル神学校卒業後、いくつかの教会の牧師を経て、シカゴ神学大学に留学、ジュネーヴにある世界ルーテル連盟本部で宣教師長、神学部門局長などを歴任。日本ルーテル神学大学教授として宣教学、実践神学部門を担当。その後九州ルーテル学院大学学長などの重責を担われた。「教会の伝道」（一九七二年、聖文舎、『牧会者ルター』（一九七六年、聖文舎、改訂版が日本キリスト教団出版局刊）などの若き日の著作は、今日の教会の実践伝道の働きを考え、学ぶためのよき手引き書として、今日まで多くの人に読み継がれている。

本書の読みどころとして二点を挙げたい。
第一、その教会観において、教会を「聖徒の会衆」（アウグスブルク信仰告白第七条）、「兄弟たちの共同体」（バルメン宣

このような神の「元氣」を取り次ぐ「説教」と「説教者」の問題（一一二章）、神の「元氣」をいただき、受け止めて、そこで成立する「教会」の問題が、聖書（神が語りかける）―説教（説教者が取り次ぐ）―会衆（神に聞く人々の集まり）の文脈で考察されている（三十五章）。

六一―一〇章では、神の「元氣」をいただく「饗宴のシナリオ」として、教会暦の成立と構成、聖書の全体を「日々の聖句」として読む作法書としての「聖書日課」の成立の意味と用い方が述べられ、結びの二章で、キリスト者の信仰生活の手引きとして、「山上の説教」（マタイ五―七章）を「神の律法」の成就としての「福音」として受けとめ、「地の塩・世の光」として生きるキリスト者の「自由と奉仕」の生活に、「神の元氣」をいただいたキリスト者の元氣な姿を見る（一一―一二章）。

以上、「神の元氣」というユニークな表現に導かれて、本書の内容の概観を紹介した。
評者は著者と同年生まれで、戦時下の小中学校時代に教育を受け、ひとかどの「軍国少年」として育てられたが、戦後に神

言第三項」という宗教改革以来の告白を継承する「信徒の教会」として受けとめ指向していること。本書は何よりも、教会の信徒に読んでもらいたい、信徒に伝道の主体となってもらおうという著者の願いによって著されたということである。「教職のわざ」と立場をば、信徒の側から見るべきである。教会の伝道にたずさわる信徒群の具体的な状況、またその訴求に即して考えなければならぬ」（『教会の伝道』）という若き日の著者の志向は、本書に至るまで一貫している。

第二、キリスト者の生活を導く「聖書日課」（ペリコーペ）の大切さについて教えられた。ボンヘッファーが、ヘルンフート兄弟団の「日々の聖句」（ローズンゲン）に導かれて、アメリカから大戦直前のドイツへの帰国を決断したことが思い起こされる（ボンヘッファー『アメリカ日記』一九三九年六月二六日）。

（もりの・ぜんこうもん）日本基督教団関東教区巡回教師
（四六判・一八二頁・本体二〇〇円＋税・リットン）



新刊 死生学年報 2014

語られる生と死

東洋英和女学院大学
死生学研究部編
●A5判並製 本体2500円＋税

古代イスラエルの死者のゆくえ
高井啓介

アルス・ヴィヴェンディ、
アルス・モリエンディ
鈴木桂子

モンゴル人の死生観
サランゴフ

日本のシャーマニズムと
死者との交流
佐藤憲昭

緩和医療現場における
「お迎え」現象とその周辺
奥野滋子

誰が話を聴くのか？
一被災地における
霊の話と宗教者
高橋 原

町はホスピスになれないか
一被災地で心のケアに
携わって見えてきたこと
宇根 節

恵みの鉛
村上陽一郎

他、8篇

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

先駆的試みを高く評価したい資料集！
日本聖書神学校キリスト教研究所編

待降節から三位一体主日まで 礼拝の詞 1



越川弘英

「ああ、やられたなあ」というのが、本書を手にとった時の第一印象だった。かねがね日本のプロテスタント教会の礼拝が充実したものとなるためにこうした本の必要性を強く感じていたが、なかなか自分から着手するのできなかった分野の著作である。そういう意味で何よりもまず最初に本書を編集・作成された日本聖書神学校キリスト教研究所のお働きに敬意を表したいと思う。

本書は礼拝で実際に用いることを想定して作られた「礼拝資料集」（五頁）である。具体的に言うと、教会暦に示された固有の主題に沿って、その日の礼拝の「招詞」「開式の祈り」「罪の告白」「赦しの言葉」「とりなしの祈り」などの「詞」の具体例が示されている。また特定の礼拝に関しては、聖書のドラマティック・リーディングなどを含むユニークな礼拝式順・内容の提案が盛り込まれている。今回取り上げる「礼拝の詞1」は待降節から三位一体主日までの教会暦に沿って作成されており、このあと続いて出版される『礼拝の詞2』（「教会の半年」行事編）ではそれ以降の期間が取り上げられる予定であるという。

本書の目次は5項目から成っており、「待降節」「降誕節」「四旬節」「復活日」「聖霊降臨日・三位一体主日」に分けられている。

ただし教会暦に沿うと言っても、本書の「詞」は毎週の主日に対応している例示されているわけではない。「待降節」の項はこの期間の4主日をすべてカバーしているものの、「降誕節」では、「クリスマス」（降誕日）、「公現日」、「主の洗礼」の3つだけが取り上げられている。それに続く「四旬節」（受難節）でも、この期節全体で用いることを想定していると思われる「詞」が最初に示されているのは、「灰の水曜日」、「洗足木曜日」、「受難日」の礼拝だけが礼拝順序等を含む形で個別に例示されている。さらにその後には「復活日」と「聖霊降臨日・三位一体主日」の項は、なぜかそれまでの項のような「節」（教会暦の期節）ではなく特定の「日」（主日）に限定されており、それぞれの礼拝における聖餐の「詞」やドラマティック・リーディングなどの提案が記されている。

複数の方々による共同作業にもかかわらず、「詞」の言葉や

表現はそれなりのまとまりがあつて、話し言葉としても分かりやすい。実用性の高い「詞」であることを評価したい。

他方、本書を読みながらしばしば困惑したのは、基本的な構成の方針がよく分からないということであつた。例えばすでに述べたように目次の前半の3項では「節」、後半の2項では「日」という異なる単位を設定しているのはなぜか。またそれぞれの礼拝における「詞」でも、ある主日は「とりなしの祈り」や「派遣と祝福」の例示を含んでいるのに、それ以外ではなかったりという不統一が目立つ。とくに冒頭におかれた「待降節」の項では、10〜16ページで4主日分の「詞」を順次例示した後、16〜22ページでなぜか再び4主日を取り上げて別の「詞」を例示している。いずれも何かしらの意図があるのだろうが、解説がなされていないのでそのねらいが読者には分からない。

リタニー（連祷／交禱）についてもひと言述べておきたい。

最近いろいろなところでリタニーの作成や実践が増えてきた。

礼拝への会衆参加という点で喜ばしい試みだと思ふのだが、時として複雑で長々しい言葉を使う例を目にすることがある。会衆の応唱部分は短く・分かりやすく・反復的な言葉を用いることが原則であると思う。本書のリタニーは大半がその原則に沿って作られているが、若干気になるものもあつた。

しかし何と言つても先駆的な試みとして本書をまとめてくださった著者たちの視点と努力は高く評価したい。礼拝のための実用的なりソースとして、本書が各教会で備えるべき必須の文書のひとつとなることは間違いないと思う。

（こしかわ・ひろひで 同志社大学キリスト教文化センター教員）
（A5判・一二二頁・本体二〇〇円＋税・発行 日本聖書神学校、発売 ヨベル）

聖公会出版

——新 刊 案 内——

聖公会の教会問答 信仰の手引き

著 ● 岩城聰

聖公会の教理を学ぶ基本は、「祈禱書」の中で大切にされてきた「教会問答」。本書は聖公会の教理、アングリカニズム（聖公会神学）、聖書神学などの深い神学的洞察に裏付けされたその解説書。聖公会の教会・信徒の望みの必携の書。



（四六判 本体定価1800円）

「他者」へのまなざし

日本版インタープリティション 84号

総合監修 ● 日本昭男・大貫隆・西原康太

「他者」について聖書はどのような指針を示しているのか。カインとアベル、人種差別の問題、家族のあり方といったテーマから「他者」の問題を考える。注目の論文4点などを収録。



（A5判 本体定価2000円）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nsk-bookshop@company.email.ne.jp

大学とは何か——その根拠を問う

W・パネンベルク著

濱崎雅孝、清水 正、小柳敦史、佐藤貴史訳

学問論と神学



佐々木勝彦

この二十年あまり、大学は、少子化を背景とした「学部・学科再編の嵐」に呑み込まれている。特に私立大学はその生き残りをかけて、次々と新機軸を打ち出している。「人気のない学部・学科は潰れて当然」という空気が支配しており、受験生の目にも、大学は今や「就職予備校」としてしか映っていない。

毎年、報告を求められる「大学教員業務・活動報告書」には、「学内外の競争資金獲得」の項目があり、この欄を埋めるために、教員は悪戦苦闘を強いられている。経営者も「授業料・運営交付金・経常費補助金」の獲得に日々追われ、公立も私立もなりふり構わず「弱肉強食」肯定論者になっている。

この非常事態の中で、「キリスト教大学の学問体系論」を考えるために、青山学院大学総合研究所は、パウエル・テイリツヒ著『諸学の体系』（法政大学出版局）に続いて、ヴォルフハルト・パネンベルク著『学問論と神学』（教文館）を翻訳出版した。「索引」を除くと翻訳で四九三頁もある大著である。

実学志向の日本の教育機関とそこに働く者にとって、この企画は「机上の空論」としか思えないかもしれない。しかし、教

育が、大学が、真理に関わり、歴史の行く末を見通し、歴史に対する人類の責任を語ろうとするかぎり、「学問論」によって鍛えられなければならない。

『学問論と神学』の第一部は「諸学問の統一性と多様性の緊張における神学」という標題になっている。もともと「神学」の伝統を切り捨てて始まった日本の大学にとって、「神学」は有っても無くてもよいものである。しかし「キリスト教大学」として、それは「存在根拠」に関わる領域である。大学が真理を問う場であるかぎり、キリスト教大学は、どうしても諸学問と神学の関係を問わざるをえない。

この書物が出版されたのは一九七三年である。それは、大学紛争が起こり、それまでの教育制度と研究の在り方が激しく問われた時代であった。この学問論は、大学の再生を願って、現実をトータルかつ根源的に捉え直そうとしており、この現実には、学内外の、これまでのすべての歴史と未来が含まれている。あれから四十年経った今日、その問いとアプローチは、古くな

るところか、ますます現実味を帯びてきている。あらゆる学問が歴史の激変の中で自らの相対性に苦しみ、過去と未来を切り捨てざるをえなくなる中で、著者はあえて現実総体を歴史として捉え、「普遍的歴史」について語る。この壮大な発想に、われわれのグローバリズムはついて行けるだろうか。「終末論的超越論的次元」に触れずに「真理と意味」について語ることはできない、と著者は言う。本当だろうか。われわれの大学論はこの真剣な問いに、何と答えるのだろうか。

筆者は、もうひとつの理由でこの翻訳出版を喜んでる。これは、パネンベルク神学を語る上で、欠くべからざる書物だからである。彼の思想の核心には、キリスト教信仰の真理の《統一性》と《普遍性》に対する確信があり、周知の如く、彼の神学は、特に自然科学およびエキュメニズムとの対話において、多大な影響を与えてきた。今日、改めてその意味内容を問う必

要がある。

しかしながら、パネンベルク神学の可能性と限界について論ずるには、まだ足りないものがある。それは、『学問論と神学』と『組織神学』三巻の関係の解明である。今回の翻訳出版をきっかけに、大学の本質論と同時に、これらの議論も盛り上がることを願って止まない。

(佐々木) かつひこ 東北学院大学文学部教授
(A5判・五〇六頁・本体六〇〇〇円＋税・教文館)

〔復刻版〕〈初版一九三八年改造社刊〉

小説

キリスト

賀川豊彦〔著〕

[544頁上製] 3,000円 (税別)

賀川は渾身五年の歳月をかけて、

この小説にキリストの愛の姿を描いた。

牧師である賀川が社会運動に関わることについて、「私はイエスの弟子だから社会運動を行うのです」と語るように、彼の幅広い社会運動の思想と実践の根底には、イエスのように生きたいという彼のキリスト信仰がありました。本書はまさに「賀川のイエス・キリスト」なのです。
(賀川豊彦記念松沢資料館館長 加山久夫「編者あとがき」)

株式会社 **ミルトス** <http://myrtos.co.jp>
pub@myrtos.co.jp
〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-10-5-2F
Tel: 03-3288-2200 Fax: 03-3288-2225

生き生きと描かれた神学者古屋安雄の自伝
古屋安雄著

私の歩んだキリスト教

一神学者の回想



深井智朗

ソウルから東京にやってきたある神学教授が、古屋先生を見つけると、すぐに近づいてきて「プリンストンで先生の講義を聞きました」と嬉しそうに英語で声をかけた。そばにいた私は驚いたが、さらにびっくりしたのは古屋先生が即座に「あつ、君か」と答えたことだった。本当に数十年前のことを覚えていたのかどうかは不明である。「あの時何の話したかなあ」「ほとんど覚えていません」というような会話がその後続いていたのだから。しかし二人とも大変幸せそうだった。本書を読んでいてその時のことを思い出した。出会いの記憶とはそのようなものなのだろう。そこには歴史的事実を超える何かがある。昨年九月に刊行された本書は、国際基督教大学で長く教授として、また牧師としての責任を担われた古屋安雄先生の「回想」、あるいは「自伝」である。思想家の自伝については、近年のラインハルト・メーリング氏の遺稿編集についての研究が指摘するように、何らかの「遺稿政策」をとまなうものである。つまり自らの著作や仕事を、次の世代がどのように読むべきなのか、著者がその解釈や遺稿集の編集方針に予め介入する行為で、自

らが亡き世界にそれらを残すための行為だと言われる。確かにそのような面があり、思想家の「自伝」を読む時には注意が必要である。しかし本書に限って言えばそのような心配は不要ない。もちろん古屋先生が留学された際の「ドルは既にブレドン・ウッズ体制で固定相場場になっていたから三五〇円ではなく、三六〇円だったと思われるし、ドイツのランデス・キルへは州教会のことではなし、九九頁に出てくる著名な神学者の名前は誤植である。しかしそれらは小数点以下の問題である。本書には「私の歩んだキリスト教」というタイトルがついている。本書を読むことで神学者古屋安雄のこれまでの人生を知ることができるが、他方で戦中・戦後日本のプロテスタントテイズムの歴史のみならず、世界のプロテスタント教会の動向を知り、また回顧することができる。それらは古屋先生が直接出会った、今日では教科書や著作を通してしか知ることができないような人々の言葉や仕事を通して語られているので（人名索引があつたら便利だと思ふ）実に生き生きと描かれている。そしてこれが本書の最大の魅力だと思ふのだが、その回顧が、現代

への示唆に富んだ提言となっている。

上海で生まれ、自由学園に学び、東神大を経て、サンフランシスコ、プリンストンで学び、ICUで教えるようになるまでのドラマティックな日々を語る古屋先生の言葉の中でもっとも印象深かったのは、戦中知識人、そして教会も何とかして戦争に行くための論理を作り出し、それを自らに言い聞かせることで、納得しようとしていた中で、山梨の「無学の伯母」が「へい、死ぬんだねーよ。生きてけえって来いよ」と語ったところである。またICUの大学紛争の最後にこんなエピソードが書かれている。「後に、ニューヨークの五番街を歩いているとき、学生運動のリーダーにばったり会ったが、彼は金のステイックを持っていた。海外のビジネスの戦士として、第一線で活躍していたのである。それにしても、あの学生運動は何であったのか、何のためだったのか。戦争ごっこだったのか」。本書が単なる回想や自伝と違って、いるのは、ことごとくよう

に、美談や成功話ばかりではなく、古屋先生が経験してきた敗戦や大学紛争についての自己反省、相対化、そして今日の日本の社会と教会への批判的な提言が含まれているという点にある。第2部には日本の教会の伝道への厳しい批判を含めた提言が収録されているはそのことと関係しているのであらう。かつて大きな声で学生たちを魅了する講義し、サングラスをかけ、素敵な喋りクタイ姿で三鷹市大沢の森を歩いておられた古屋安雄先生も八八歳になられる。つまり今や五回目の二〇周年期説を生きておられる（その意味について知りたい方は先生の『日本の神学』を読むことをお勧めする）。伝え聞くところによれば、先ほどの名前が誤植であつた著名な神学者は、ぜひ先生と、先生のお好きなものを飲みながら、「バルトにとって教会とは何か」について議論したいとのことである。

（ふかい・ともあき 金城学院大学教授）
（四六判・一七二頁・本体一八〇〇円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中!

天の国の種

いま、最も愛されている説教者！ 待望の翻訳！
読み物としての説教
マタイによる福音書を歩いた
バーバラ・ブラウン・テイラー 著
平野克己、古本みさ 訳

現役説教者であり、いま最も愛されている聖公会の女性司祭の説教集！ おつき話を語るかのように、聴き手をそのただ中へ引き込み、聴く人の心を燃やす説教！
【著者】バーバラ・ブラウン・テイラー 一九五二年生まれ。エモリ大学、イエール大学神学大学院を卒業後、米園聖公会司祭として、幾つかの教会で牧師を務めた。現在、シカゴ州のヒートリフト・カレッジの教授、アメリカで最も定評のある説教者のひとりであり、世に愛されている書物の中で、その

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 043-424-2067 (価格税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com



青山学院大学総合研究所叢書
スタンリー・ハワードス著 東方敬信監訳
大学のあり方——諸学の知と神の知
青山学院大学名誉教授 東方敬信

A5判・三八四頁・本体三五〇〇円＋税・ヨベル

本書には、二十一世紀の最新の学問とまた最新のキリスト教神学との対話が見られる。つまり、急速に発達してきた自然科学の知見や二つの世界大戦を経験した前世紀に展開した政治学や法学を含んだ社会科学の展開などを現代神学がどのように見ているかが分かる。これまでマックス・ヴェーバーなどの近代世界の成立とキリスト教信仰の関係を論じたものがあつたが、最近ではポスト近代の視点から自明とされてきたものを問い直す作業が生まれてきている。とりわけアラステリア・マッキンタニアやチャールズ・テーラーなどの社会哲学にその視点が見られる。

著者スタンリー・ハワードスは、そのポスト近代の状況のなかでキリスト教神学の立場から自由自在に対話の相手を見つけて論陣を張っていく。しかも、近代の人間観や世界観から生み出される人間のありさまを的確に把握しながら、キリスト教神学の立場から対話していくダイナミックな議論が見られる。とりわけ、セプテンバー・イレブンの事件を経験したアメリカ社会での学問の役割やキリスト教信仰の役割などが興味深く展開されている。ある意味では英語圏の思想的雰囲気分かる対話

群である。しかも、序章の注にあるように、代表的なりサーチ・ユニバーシティの一つで知性の形成と道徳性の形成の間の矛盾が生じたのであるが、そこに示される人間の限界と痛みがこれからの社会のあり方への不安を暗示しているようである。このような実存的要請にも答えようとするのが本書である。その点でも私たちの将来の社会のために参考になる対話群である。

……ウェスレーの言葉に、「社会的宗教」という言葉があつたが、大学は高等教育として、初等教育から始まる教育過程の完成をめざし、その上で社会人を生み出す使命を負っている。その意味では、大学で教えられている内容が将来の社会を形成していくと考へても良い。したがって、キリスト教大学にはキリスト教信仰と現状の社会のあり方についての対話が必要になる。その意味で、将来の社会と大学の使命だけでなく、ポスト近代と将来のキリスト教信仰の使命とあり方が問われてくる。はたして、大学教育はどうあるべきなのか。そして、この問いの射程は、中等教育、初等教育、さらには幼児教育にまで、伸びていくにちがいない。本書はこのような問いに答えを求めて探求する人々にヒントを与えてくれるにちがいない。(あとがきより)

青山学院大学総合研究所叢書 スタンリー・ハワードス著 東方敬信監訳

大学のあり方

——諸学の知と神の知



絶賛発売中
教会と大学との関係がどうであったか、また今どうあるべきかを問うものではない。むしろ、私がキリスト教神学の方法論をどのように教えられ、自らそれを教授し続けようとしているのかを探求し、検証しようとするものである。「大学のあり方」というタイトルは、……むしろ、公立であろうと私立であろうと、世俗的であろうと宗教的であろうと、私たちが大学であると認知しているような大学は、国家を反映し、それに奉仕する学問を形成すると共に、再形成するものであることを示すつもりである。大学は近代における正統性を示す偉大な制度である。

● A5判・三八四頁・本体三五〇〇円＋税

宗藤尚三著 核時代における人間の責任

ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために
良心の「立ち入り禁止区域」をこれ以上つくらせないために！「兵器」であれ、「平和利用」であれ、人と自然の存在を脅かす核の拡散には如何なる然りも含まぬ否！を訴えることが求められている現在、渾身のメッセージを提示。
ヨベル新書022 ●一七八頁・本体一、〇〇〇円＋税



民主的な民衆がなぜ戦争を推進する政治家を選んでしまつたのかを説明する本(富田正樹氏評)アルノ・グリューン著
村椿嘉信・松田眞理子訳
私は戦争のない世界を望む
●九〇〇円＋税

中村吉基著 キリストは私たちのただ中に

都心の小さな教会で語られた礼拝メッセージ
心が擦り切れそうになった人々に一杯の水を差し出す教会でありたい！さまざまな人々が集まる新宿に開かれた教会の10年！ ●四六判・一二八頁・本体一、二〇〇円＋税

藤原孝行著 聖書に基づくイエス様の受難と十字架

埋葬と復活・昇天と再臨
イエス様の受難の歩みが世界の歴史を変えた！自分たちの恥をさらしてまでも証言を残した弟子たちの真実とは？
●四六判・二五二頁・本体一、五〇〇円＋税

自費出版の専門出版社 星／「本を出版したい方へ」
株式会社ヨベル YOBEL Inc. 資料請求は info@yobel.co.jp または下記へ
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

既刊案内 (2014年2月~3月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
近 藤 勝 彦	贖罪論とその周辺 —組織神学の根本問題2	A 5	384	5,500	〃	3/25
アウグスティヌス著 泉 治典ほか訳	神 の 国 下 —キリスト教古典叢書	A 5	750	6,200	〃	3/25
皆 川 達 夫	洋 楽 渡 来 考 再 論 —一筆とクリシタンと の 出 会 い《DVD付》	A 5 函入	160	6,400	日本キリスト 教 団 出 版 局	3/10
鍋 谷 由 美 子	賀川ハルものがたり	四六	160	1,500	〃	3/20
W.ブルグゲマン著 鎌 野 直 人 訳	預 言 者 の 想 像 力 —現実を突き破る嘆きと希望	四六	272	2,800	〃	3/20
P.アクティマイアー著 村 上 実 基 訳	現 代 聖 書 注 解 —ローマの信徒への手紙	A 5	394	5,800	〃	3/25
落合建仁、小室尚子	聖 書 入 門 —主を畏れることは知恵の初め	A 5	120	1,300	〃	3/25
宮 本 久 雄、 武 田 な ほ み 編 著	《2013年上智大学神学部夏期講座講演集》 信 と は 何 か —現代における(いのち)の泉	四六	344	2,800	〃	3/25
今 井 敬 隆	あ なた の ガ リ ラ ヤ へ — 聖 書 を 読 む	四六	346	1,500	新 教 出 版 社	3/1
F.アンブロジーティ、 S.ルビン著 八重樫克彦・由美子訳	教 皇 フ ラ ン シ ス コ と の 対 話 —みずからの言葉 で 語 る 生 活 と 意 見	四六	240	1,500	〃	3/25
石 丸 新	た だ 神 を 待 つ —ダビデのまねび	四六	270	2,200	〃	3/25
佐 藤 優	神 学 の 履 歴 書 —初学者のための神学書ガイド	四六	260	1,900	〃	3/25
立 野 泰 博	被 災 地 に 立 つ 寄 り 添 い 人	四六	356	2,200	キリスト新聞社	3/14
越 川 弘 英	旧 約 聖 書 の 学 び	A 5	266	1,800	〃	3/25
説 教 塾 編	イエス・キリストを説教するとは — 一 こ ころ か ら こ こ ろ へ の 言 葉 を め て	A 5	276	3,000	〃	3/25

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
稲 垣 久 和	改 憲 問 題 と キ リ ス ト 教	四六	202	1,300	教 文 館	2/10
斎 藤 惇 夫	わ た し は な ぜ フ ァ ン タ ジ ー に 向 か う の か	四六	128	1,100	〃	2/10
関 啓 子	ま さ か 、 こ の 私 が — 脳 卒 中 か ら の 生 還	四六	180	1,400	〃	2/20
清 水 光 雄	ウ エ ス レ ー を め ぐ っ て — 野 呂 芳 男 と の 対 話	四六	294	2,500	〃	2/25
古 橋 昌 尚 編	今 日 の ア ジ ア の 教 会 に お け る イ ン カ ル チ ュ レ ー シ ョ ン	四六	148	1,800	〃	2/28
D.ゼレ、L.ショットロフ著 丹 治 め ぐ み 訳	ナ ザ レ の 人 イ エ ス	四六	210	2,200	日本キリスト 教 団 出 版 局	2/24
特定秘密保護法に反 対する牧師の会編	な ぜ 「 秘 密 法 」 に 反 対 か — 開 か れ た 平 和 な 国 の た め に 祈 り つ つ	A 5	136	1,300	新 教 出 版 社	2/10
宮 平 望	テ サ ロ ニ ケ 人 ・ テ モ テ ・ テ ト ス ・ フ ィ レ モ ン へ の 手 紙 — 私 訳 と 解 説	A 5	464	2,400	〃	2/17
楠 原 博 行	キ リ ス ト 者 は 何 を 信 じ て い る の か — ハイデルベルク信仰問答入門	四六	120	1,000	〃	2/24
松谷信司、浅野淳博、 中道基夫、坂口 新、 汐碓直美、中野祐成	関 西 学 院 大 学 神 学 部 ブ ッ ク レ ッ ト 6 — 若 者 と キ リ ス ト 教	A 5	152	1,500	〃	2/21
ケネス・リーチ著 関 澄 子、関 正 勝 訳	魂 の 同 伴 者 — 現 代 世 界 に お け る キ リ ス ト 教 の 霊 性	四六	424	2,300	聖 公 会 出 版	2/1
石 田 順 朗	神 の 元 気 を 取 り 次 ぐ 教 会 — 説 教 ・ 教 会 暦 ・ 聖 書 日 課 ・ 礼 拝	四六	182	1,200	リ ト ン	2/7
渡 辺 善 太	わ か っ て 、 わ か ら ない キ リ ス ト 教 — 渡 辺 善 太 著 作 選 12	新書	308	1,800	ヨ ベ ル	2/17
教文館子どもの本の みせナルニア国編	2013年に出た子どもの本	B 5	176	1,200	教 文 館	3/3
J.J.フラーフラント著 関 谷 登 訳	市 場 倫 理 と キ リ ス ト 教 倫 理 — 市 場 ・ 幸 福 ・ 連 帯	A 5	274	2,600	〃	3/10
池 利 文 写 真 門 脇 佳 吉 編 集 ・ 解 説	ア ッ シ ジ の 聖 フ ラ ン シ ス コ の 面 影 — 教 皇 フ ラ ン シ ス コ に 捧 ぐ	A4変	140	2,800	〃	3/20
W.パネンベルク著 濱崎雅孝、佐藤貴史、 清水 正、小柳教史訳	学 問 論 と 神 学	A 5	506	6,000	〃	3/20

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター17F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区藤原2-1-1	043-238-1224	共用		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://setaikai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		krisutokyoushotenhanne@ybb.ne.jp	00150-9-5955009
ハイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnarcis/index.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用		00540-6-82826	
静岡聖文舎	420-0812	静岡市葵区古庄3-18-12	054-264-0264	054-264-4416	info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558	
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594	
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakabos	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9833		01150-7-45120	
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	01360-4-1958	
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用		01630-5-37119	
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://kcbok.net/	01650-1-2120	
北九州キリスト教書店	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		01780-4-39965	
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484		01750-5-10932	
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		017304-45044	
沖縄キリスト教書店	901-2134	浦添市港川2-25-1	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

キリスト教本屋大賞 2014

2013年1月~12月に出版されたキリスト教書の中から全国のキリスト教書店が大賞を選出します!
全国のキリスト教書店員 おすすめの本! **ノミネート作品10点の発表**
 書店にてフェア展開予定(2014年6~9月) ▶ご注文は最寄りのキリスト教専門書店へ



面倒だから、しよう
 渡辺和子●著
 1,028円(税込)



もっと教会を
 行きやすくする本
 「新来者」から
 日本のキリスト
 教へ
 八木谷涼子●著
 1,620円(キリスト新聞社)



バイブルワールド
 地図でめぐる聖書
 ニック・ペイジ●編
 1,728円(いのちのことは社)



教会では聞けない
 「21世紀」信仰問答I
 まずは基礎編
 上林順一郎●著
 かびばら●マンガ
 1,944円(キリスト新聞社)



ハーフボリューム
 バイブル
 共同訳聖書実行委員
 会●編
 7,128円(日本聖書協会)



祈りの小径
 小島誠志●著
 小林恵●写真
 「信徒の友」巻頭の「祈り」から29篇を
 精選し、彩り豊かな写真を添えて贈る。
 1,944円(日本キリスト教団出版局)



キリシタン
 黒田官兵衛
 上巻
 雑賀信行●著
 1,512円(雑賀編集工房)



福音の再発見
 なぜ「救われた」人たちが教会を
 去ってしまうのか
 スコット・マクナイト●著
 中村佐知●訳
 2,160円(キリスト新聞社)



地図と絵画で読む
 聖書大百科[普及版]
 バリー・J・パイツェル●監修
 船本弘毅●日本語版監修
 4,536円(創元社)

マンガで読む日本キリスト教史
 タイムっち
 なぜ天皇が神サマになったのか
 岡田明●作 みなみななみ●画
 2,160円(キリスト新聞社)



【選出方法】

■一次選考(2014年4月8日~20日)

▶▶▶無事終了いたしました。

投票用紙をキリスト教出版販売協会加盟の書店に配布し、ベスト3を投票していただき、1位=5点、2位=4点、3位=3点とし、合計得点のベスト10をノミネート作品としました。選考を通過した本は上記の通りです。

■二次選考(2014年5月1日~7月31日)

▶▶▶ただいま審査に向けての準備中です。

ノミネート10作品から再投票して大賞を選出します。

▶▶▶大賞決定 9月上旬予定

投票に参加いただいた全国のキリスト教書店にてポスター・チラシ等で発表します。

お楽しみに!

主催:キリスト教出版販売協会 書店部、販売部、出版部

※重版の際、価格を変更することがありますが、ご了承ください。価格表示は8%税込。

どうご期待!
 果たして
 大賞に選ばれるのは?

新教出版社

福音と世界

2014年6月号

特集 神の像のごとくに——人間を神学する

「神の像（かたち）」に…………… 緒川久子
 自己への回帰…………… 岩田靖夫
 あなたは誰と共に生きるのか…………… 海老原晴香
 精神障害者との交わりから……………
 出生前診断から考える人間…………… 金永泰
 人間を問う…………… 稲葉景
 竹富町教科書問題…………… 藤井幸子
 映画『大いなる沈黙へ』…………… 坂田奈々枝

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

ただ神を待つ

ダビデのまねび

石丸新



数十年にわたる牧師生活の中で読み進めてみきた「詩編」を「ダビデのまねび」の観点から学び直した珠玉のメッセージ集（40編）。

◎ 四六判・270頁・2200円＋税

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL: 03-3260-6148
FAX: 03-3260-6198

編集室から

洗足木曜日（復活前木曜日）を迎えると決まって思い起こすことがある。東京都大田区に「洗足池」という池があり、付近に日本基督教団洗足教会とカトリック洗足教会がある。洗足という名の由来は、鎌倉時代に日蓮上人が旅の途中、この池で足を洗ったという故事による。近隣のクリスチャンであれば、教会名が地名によることがわかるであろうが、そうでない人にとつては、なんと聖書的な教会名であろうかと感嘆するのではないだろうか。余計な詮索ではあるが、二つの洗足教会で行われる復活前木曜日とは、いかなるものであるかと興味が湧く。

復活前木曜日は、聖餐が設定された日である。またこの日には、「国王・主教・修道院長などが貧しい人々の足を洗う習慣があった（キリスト教大事典）」という。たとえ形式であろう

とも、人の足を洗うことには抵抗がある。だからこそ、それを実践することによって、日頃の驕慢を修正することができたのである。

私事で恐縮ではあるが、三月に八十四歳になる私の母が、洗足池近くの大病院に入院した。入浴もままならない母の細くなった足をタオルで拭いた。田舎育ちで頑強な身体を持っていたはずの母の足を拭くなど思いもよらないことであった。しかし、その時、ペトロの足を洗う主イエスの御姿（ヨハネ一三・一～一五）を思い起こして心から慰められた。ふと窓の外を見ると、偶然（全くの偶然！）ではあるが、日本基督教団洗足教会が見えた。

（寺田）

東方諸教会の歴史を
網羅した初の邦語文献!



村山盛忠訳

● 本体8,000円

東方キリスト教の歴史

アズイズ・S・アティーヤ



キリスト教神秘主義著作集12
シヴエルクフェルト、フランクほか 中井章子ほか訳

宗教改革の時代、中世とは異なる神秘思想
が出現した。激しい迫害にさらされながら、
内面世界の神秘を追求した、ドイツ語圏に
おける個性的で色彩の濃い神秘家たちの思
想展開の軌跡を辿る。

● 本体7,900円

天地創造物語

説教と黙想

及川信



「初めに、神は天地を創造された」で始まる
天地創造物語は、文字通り起こった出来事な
のか。「天地創造」に秘められた問いと願い
を解き明かす説教集。

● 本体1,800円

十六世紀の神秘思想

人を生かす神の息

聖書から聞く現代へのメッセージ

近藤勝彦



「大きな挫折の時が、神の救しの中で
創造的な時に変えられる」。どのよう
な状況にあっても神の導きに従うキ
リスト教の信仰。聖書の御言葉に聞
き、新たに生き返らせる福音を伝え
る。「聖霊」の御業を大胆に語った29
篇の説教。

● 本体1,900円

好評発売中!

『確かな救い』

● 本体1,900円

『喜び祝い、喜び躍ろう』

● 本体1,900円

『万物の救済』

● 本体1,900円

『いま、共にいますキリスト』

● 本体1,900円

『しかし、勇気を出しなさい』

● 本体2,500円

コプト教会、ヤコブ派教会、アルメニア教会など、カル
ケドン公会議後に主流派から分離した東方諸教会。その
独自の伝統と文化はどのようにして形成されたのだろうか
か? なぜ北アフリカと中東だけでなく、遠くインドや
中国にまでその勢力が拡大できたのだろうか? 起源か
ら近代までの東方諸教会の歴史を鳥瞰し、イスラームの
支配下でのキリスト教の歩みを辿る。



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館

新教出版社
創立70年記念
連続神学講演会
のご案内

7月26日 佐藤 優氏 「危機を超越する福音」
——フロマートの受肉論に学ぶ
10月25日 荒井 猷氏 「最後のパウロ」
——使徒行伝28章30—31節に寄せて
いずれも土曜午後2時より日本基督教団 信濃町教会にて。
入場無料ですが、定員がござりますので、事前にメールからア
スでお申込をお願いします。

好評の既刊
神学の履歴書
佐藤優著 初学者のための神学書ガイド
バルトからマクグラスまで初学者が読むべ
き13冊の読みどころを解説。佐藤流神学書
講読ゼミ！
◆四六判・本体1900円



宮田光雄著 **私の聖書物語**
イースター黙想

ボンヘツファー、バルト、フルトリツカ、
ルら神学者や現代美術家、そしてパウロの復活観を辿り、キリスト教信
仰の核心である「復活」の理解を深める味わい深い黙想集。著者の信仰
的自伝ともいふべき《私の聖書物語》を収録。
◆B6変・本体1800円



シヤガー



神の国の種を蒔こう
W・M・ヴォーリズ著 / 木村晟監修 キリスト教メッセージ集
ヴォーリズは日本人を深く愛し、近江八幡を拠点に、建築家、
教育者、実業家、伝道者として超人的な働きを残した。本書は、
彼の多彩な活動の核心にあった信仰を伝える珠玉のエッセイ
70余編や、自伝的エッセイ「一粒の信仰」等を収録。激動の
時代をひたすら神の国を目指して走った一信徒の姿とその志を追
うことができる。没後50年記念
◆四六判・本体2000円

自民党改憲草案を読む

横田耕一著 (よこた氏は九州大学名誉教授)
その危険な本質を喝破するブックレット！
基本的人権や平和主義のみならず立憲主義自体を脅
かす危険な本質。その見過ごされがちな問題を分か
りやすく解説。
◆A5判・本体900円

既刊 **なぜ「秘密法」に反対か**

特定秘密保護法に反対する牧師の会編
33人の牧師たちの意見と証し。◆A5判・本体1300円